

# 安寧



兵庫縣姫路護國神社報  
 「安寧」第六号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒六七〇〇三姫路市本町一八  
 電話〇七九二三四一〇八九六  
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 英霊の言乃葉

遺書

陸軍中尉 三木

清命

昭和二十年八月六日  
 ビルマドンゴール県にて戦死  
 兵庫県出身 二十五歳

謹みて  
 父上様 想へば幼少の頃より慈しみ下されまして誠に有難う御座いました。何もいたさない私の如き者に、斯くも親とは申せ御慈しみ下されし事を重ねて深謝致します。

今、幸にも大東亜の花と歌はれし〇〇に向ひます。唯御両親始め妹に何一つとして盡さなかりし身を悲しむのみです。

護りの神として遙に九段の神域に神鎮ると思へば、唯皇恩の厚きに涙流る、ものを洵に感慨にたへません。幸にして戦死を得ますれば 清よ よく死んでくれたと一言申して戴きますれば 南十字星のもと、私は世界一の幸福者です。

墓は極く小さな物にて可。決して亡き母上より大きくすべきにあらず。

唯此上は御父上様には御体を大切に、長寿を全うせられます様御祈り致して居ます。

母上(注 継母) 妹様の御健康を祈りつ、身も心も清く、笑つて〇〇に向かつて行く事が出来ませす。

昭和十八年二月二十三日

清

父上様

# 崇敬奉賛会総会

本会の三回目になる総会が四月二十六日に開催された。二十三年度決算報告並びに本会会員新規加入者数が発表された。その内訳は法人会員二十三口、個人会員百二十七口、終身会員九口の増加となった。当初目標としていた半程度度の増加であった。また二十四年度の事業計画が審議された。三宅会長は「英霊の感謝と報恩の誠を捧げること、そしてその御遺徳を子々孫々まで顕彰し伝えていくことが、太平の世に生きる我々の使命です。その趣旨を一人でも多くの人に広めていただき、そして崇敬奉賛会会員としてお誘い頂きたくお願い申し上げます。」と挨拶された。



三宅会長挨拶

# 春季例大祭

初夏の候五月二日に春季例大祭が盛大に執り行われた。あいにくの雨天であったが、多くの方が参列された。国歌斉唱に始まり、次に御扉が開かれ、神饌・神社本庁幣が献じられ、裏千家淡交会西播磨支部千種・ゆめさき青年部による献茶、そして泉宮司が祝詞を奏上された。その後、姫路吟剣詩舞道連盟有志による扇舞、姫路市民合唱団による「花」と「しあわせ運べるように」がそれぞれ奉納された。



姫路市民合唱団

参列の様子



# 小野田寛郎氏正式参拝

小野田氏が三月二十五日来姫され、当神社に正式参拝された。小野田氏はルパン島で終戦後三十年間も戦い続け、帰国後、ブラジルに渡り、牧場経営をされ、現在は日本で小野田自然塾を開講し若者の育成に力を入れておられる。参拝後、崇敬奉賛会の若者に護國神社の大切さを語っていた。 「皆さん、もう護國神社のことはよく勉強されて十分承知なさっていると思うのですけれども、我々戦争に行つて生き残つて帰つて来た者としては、自分達の仲間がお祀りされている（所です）。特に若くて独身で亡くなった兵士というのは、自分をお祀りしてくれる子孫がないわけですよね。だから親兄弟がなくなると、仏教で言う無縁仏になるわけで、その人達は既婚で遺族のある方よりも気の毒だという気持ちがあるんですけど、いずれにしても国家非常時に身を挺して、犠牲になった



小野田寛郎氏正式参拝

## 表紙の写真について

人達を遺族が御守りするというわけではなく、みんな御守りする。みんなの為、国の為に亡くなったから、みんなでお参りするのだから、ことだというわけで、氏神様をお参りすれば、その次は護國神社にお参りして頂きたいと願っているわけです。それでないと、これから非常事があった時に、誰も命をかけて国を守ろうとする人なんかなくなってしまう。そういう風なことからして若い方々にこれからもお参りして行ってほしい。特に遺族の方はだんだん減るので、護國神社やそれぞれ自分の地域の先輩達は大事にして頂きたいと思います。」

五月二日に執り行われた春の例大祭の写真ですが、泉宮司の装束の色が黒色に変わっています。前回の秋の大祭では、赤色でした。これは、泉宮司の神職身分が二級上から一級に上がったからです。

全国で約二万一千六百人の神主さんがいらっしゃいますが、黒袍(くろぼう)といわれる黒色の着衣を使用できるのは、わずか二百五十名程度です。また、袴の色も若干変わっています。袴については、紋が白くなっているのが特長です。神職身分は四級から特級まであります。昇格するには経歴・人格や神道・神社に関する功績が高かった人が神社本庁で選考されて決まります。

(前川 記)

# モンテンルパの夜は更けて

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 天田博子

大自然に恵まれ、四季折々の風景を見せてくれる日本、歴史と伝統に裏打ちされた郷土、礼儀正しく豊かさを持った人々によって独自の国民精神を築いてきた。そうした素晴らしい文化に応えようとせずに権利を振う現状は、悲しいモラルの低下である。政治家は国家観、歴史観も薄く、利権に走り、日本固有の領土を守る為に働こうとしない。政治家だけではない。子殺し、親殺し、それに無差別殺人など、かつてありえなかった犯罪が起き、世界で図抜けていた治安も段々落ちてきた。こうした現状を故郷に帰る事なく、海や山で散華された英霊は、どう見てもおられるであろうか。私達は「すべての日本人は極悪人だ」という戦後の洗脳教育の罨から脱却し、歴史の真実を学び語り伝えて行かねばならないと思います。今失われてしまった祖国愛・郷土愛・家族愛に手を付け、どう取り組んでいくか、力を合わせ未来を背負う子供達が安心して暮らせる地域社会を目指し、「未来を子供に手渡す」その責任があります。

明治十五年、加賀尾秀忍は岡山県落合の寺の三男として生れ真言宗の僧となった。加賀尾は、昭和二十四年十一月四日フィリピンマニラ郊外のモンテ

ンルパにある戦犯刑務所に、教誨師として赴任する。任期六ヶ月を迎え、滞在延期を嘆願するが、政府は延長を認めず、支給は任期をもって打ち切られた。その為、加賀尾は獄中で死刑囚と寝起きを共にし、残飯を食べ、処刑の瀬戸際に立つ囚人を何とか救いたいと動いた。そして当時の日本の指導者やキリノ大統領宛に助命嘆願書を出す。なかなか受け入れて貰えず、故郷を偲び、歌を歌い励ましあっていた囚人達に相談し、元憲兵代田銀太郎が作詞、元将校伊藤正康が作曲して「あ、モンテンルパの夜は更けて」を作成する。その曲を日本に持ち帰り、各地の戦地をおとずれて慰問し捕虜になった事のある歌手、渡辺はま子に出会い依頼する。快く引き受けた渡辺はま子は、自分も戦意を煽ったためと感じ、どうしてもモンテンルパへ行って謝りたいと思い、フィリピン政府にビザを申請するが、渡航の困難だった時代でなかなか許可されず、ぎりぎりビザを取得、苦難をかさねモンテンルパ刑務所に辿り着いた。四十度をこす酷暑の中で、振袖を着て歌うはま子、最後に当時、禁じられていた「君が代」をビオ・デュラン議員が「私が責任を持つ、歌ってよい」と言った為、全員が起立、祖国

日本の方に向かい歌い始めた。多くの人は、泣いて声が出ず、泣き崩れる者もあったようだ。

こうした慰問録音テープは、日本ラジオ放送から全国に流れ、多くの人達が知る事となり、世論を動かし六ヶ月という短期間に五百万人の署名が集り、戦犯者救出運動となつて行つた。そうした国民運動は外務省を動かし、当時のローマ法王のピウス十二世の協力も頂き、やつとフィリピンのエルビディオ・キリノ大統領と会見する事が出来る事になった。加賀尾は、言葉の代わりに、渡辺はま子から貰い受けた「あ、モンテンルパの夜は更けて」のオルゴールをキリノ大統領に手渡した。キリノ大統領は慕郷の思いのこもったそのオルゴールに聞き入り、この曲が日本人戦犯者の作成である事を知る。ご自分の身内が戦によって命を無くしていたが、会見まもなくフィリピン独立記念日の昭和二十四年七月七日に、晴れて死刑囚全員の特赦が実現した。昭和二十四年七月二十二日、死刑になった戦犯兵士の遺骨十七柱と元日本人兵士百八名と共に横浜港大棧橋に着岸、帰還する事ができた。こうした加賀尾や渡辺はま子の多くの死刑囚を救った行動は当時の人々に感動と敬意を抱かせた。無欲無私の精神でモンテンルパ刑務所で過した三年二ヶ月、加賀尾秀忍は昭和四十二年五月十四日、ふるさと岡山で七十六年の生涯をとりられた。

「孟子曰く 生も我が欲する所なり

義も亦我が欲する所なり 二者かね得べくんば生を捨て義取らんものなり」私達の先人達は義に迷いもなく命を懸け、時代を駆け抜け、無名のまま散華していった。

人の生き方は様々ですが、私達は出会う人から希望や勇気を受け、温かい心に触れ成長していきます。親は当然の如く、恩師やふと出会った書物からも、花や木、小鳥の声、多くの自然界から数知れないほど、あらゆる処から生きる力を受け、同時に自分もこの波動を周りに伝えおよぼし生きています。

生きとし生きるものは全て役目をもって産まれ、なにげない生活の中にさまざまな出会いがあり、経験や体験を積み重ね、懐の深い人に成長すると思います。

ましてや、日本丸の舵を取る政界・経済界・教育界は、日本再生に心を馳せ、使命感を持って行動してほしいものです。

百二十五代皇統連綿とつづいているご皇室に敬意を持ち、日本各地にあるそれぞれの護國神社や各地のお社を日本国の宝とし、我が国土に根づいた素晴らしい伝統や文化を後生の人々に伝え、守っていく責任があると感じています。

出合いに感謝し、よく学び、よく働き、祖先の恩に報い、それぞれの立場で時代の語り部となつてみてはいかがでしょうか。

(天田産業株式会社取締役)

## 元自衛官の米国留学体験記

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

會員 曾田 孝一郎

(はじめに)

この体験記は日本が高度経済成長初期の昭和三十八年に自衛官として防空ミサイル最先端技術を修得する為に米陸軍防空学校(テキサス州西部のメキシコとの国境にあるエル・パソ市、西部劇で有名な町)に留学した時の体験です。

私も戦後教育を真摯に受けた世代で、自衛官になっても当時の区隊長や助教は旧軍の立派な方々でしたが、自虐史観については沈黙を守っておられました。「自衛官は政治に関与せず」の規則が存在していたのが原因と考えられます。自虐史観認識で渡りました。留学生十八名で階級は下士官(陸曹)でした。

私達が学んだホークミサイルは中・低高度目標(高度一万メートル以下)専門でしたが一番の難題はドップラーレーダーの開発だったようです。現在は空港・港湾や宇宙、身近には速度取締りに引掛かった方も此のレーダーのお世話に。ところでこのレーダー開発には「神風特攻隊」が影響している事は案外知られていません。超低高度で接近攻撃してくる特攻機には米海軍も手を焼き、移動目標だけを探知するレーダーの開発に着手し、拾数年掛けてやっと実用に目途がついたとのことでした。現在このホークミサイルは改良が重ねられて日本の空を守っています。間もなくリタイアしますが半世紀も使用された優秀な兵器です。

(出航から到着まで)

羽田空港から制服姿で搭乗、当時最大のジェット旅客機はDC8(約二百五十人乗り)でしたが、航統距離が直接米本国まで届かずハワイ経由でした。幸い座席が主翼後方の窓側でしたので、ホノルル空港に到着する前に何とパールハーバーの上空を一周したので、軍港には多数の戦艦等が停泊しており、真珠湾攻撃機のパイロットもこの様な光景を目にしたのでは?と思います。「よく、やったもんだ」と共に「申し訳無いことをした」との複雑な気持ちで空港に到着、入国審査は無く制服の威力を初めて体験しました。サンフランシスコからの大陸横断鉄道では個室を宛がわれ、一昼夜かけてエルパソ駅に、その間西部劇で観るような広大な風景が延々と続き、こんな大国とよく闘ったものだと思えて認識。米国は軍人を信頼し大切にすることを実感しました。日本では制服に対し「税金泥棒」とは雲泥の差でした。

(学校での体験)

さて、防空学校に到着して驚きました。当時は東西冷戦の中、西側陣営の中心は何と言ってもアメリカでした。約二十ヶ国からの留学生で色とりどりの制服姿、アジアからは南ベトナム、フィリピン、インドネシア、台湾、韓国、タイ、インド、中東ではイラク、イラン、イスラエル、エチオピア、クエート等の学生が生活していました。但しイスラエルだけは隊舎

は離れていましたが、時々兵士に会うところも日本軍に敬意を持っていたようでお互い敬礼をしていました。今では考えられない国際関係でした。

軍の食堂はイスラム圏のみ区別されており、食堂に近づくと盛んに私達に敬礼する東南アジアの学生が居るので「何だろう?」「東南アジアの国々には迷惑掛けたのに?敬礼される筈が無い」と恐る恐るフィリピンの兵士に質問したら、「我々は日本軍を模範として訓練しています」との事、「日本軍は貴国に大変迷惑を掛けたと教わっていますが?」問い質すと「確かに、どの軍隊でも軍紀を無視する一部の兵士がいますが、日本軍は軍紀を守り勇敢でした」との返答に驚き、「我々は日本軍を見ると敬礼するよきに云われている」とのことでした。これは変だぞ!とその翌日、今度は敬礼した台湾の兵士と同じ質問をしたら「日本軍は我々の模範とすべき軍隊です」との事、なにやら私達は間違った教育を受けていた事を認識するようになり、次の言葉で確信しました。「訓練が苦しくなったら日本軍の勇敢さを思い出せ」と教わっているとのこと。タイやインドネシアの兵士にも尋ねましたが、お互い英会話力に限界があったものの、旧軍について「ナンバークン」だけは解りました。

韓国の若い兵士達は会うと笑顔で敬礼しつつ、馴れ馴れしく話かけてきました。「韓国では「日本軍について」どんなイメージで教育されているか」との問いに「日本軍は厳しい訓練で強い、我々も同じ」当時日韓は不穏な政治状況でしたが異国の地では軍人同士は仲良くしていました。但し一寸年配の下士官・幹部になると日本語が通じましたので発言は要注意でした。ホークミサイルを採用する国は十ヶ国以上でしたが、先端技術の修得

なので各国共優秀な兵士を集めての留学生でした。その中で日本は常に一・二番の成績でした。ミサイルについては先進国である西ドイツはブライドが高く、日本に負けると全員補備教育を受けていた。又米軍は国産ミサイルだけに他国の学生に負けることを気にしていません。幸い日本には技術陸海空曹を養成する「少年自衛官」制度が存在(現在でも存続)し学生の大半を占めていたのが好成绩の要因と思われます。学生手当(当時は一ドル三百六十円)は留学生間では最低でしたので、「日本軍(世界では自衛隊は軍隊)は貧乏でも成績はトップ」のイメージが定着していました。

米軍他各国の将校から「日本軍の下士官は優秀」の賛辞を度々耳にしましたが、これは成績優秀な自衛隊学生に旧軍下士官の勇敢さが結びついての評価だと思います。

(まとめ)

当時の日本は高度経済成長に邁進し、大切な伝統や文化も忘れその上謝罪外交の結果、自虐史観が定着し日本が「侵略国家」であったとした政府見解、果たして戦場となった国々の将校・兵士からこの様な旧軍に対する賛辞が聞かれるのだろうか?戦後十八年目に貴重な体験をした元自衛官から特に若い方々にこの事を申し上げ、正しい歴史認識をもって護國神社にお参りし、国の為に一命を捧げた英霊の方々を想って頂きたい。

自衛官も国民の生命・財産を守るため厳しい訓練に耐えています。憲法を改正し自衛隊を早く国防軍として位置づけ、これ以上領土が侵されないようにする事、及び世界平和の為に貢献する事が英霊に對する私達国民の責務と考えます。

(隊友会姫路支部事務局長)

# 郷土の明治維新の立役者③

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

会員 戸川文夫

昨年の新緑の頃、姫路藩勤王志士のご子孫から直接ご連絡をいただき、姫路護國神社を一緒に参りさせていただいたご縁で、幕末姫路藩の尊王攘夷運動について深く考えるようになりまして。「歴史」という物語の結末を知ってしまっている私達は、とかく時を隔てた現代の高みから歴史の登場人物を一方的に批評し判断してしまふことが多いです。「相手の立場になつて物事を考える」という姿勢は対人コミュニケーションの基本として世の中に広く認知されているのに、なぜ「歴史認識」については現在から過去へという価値観（より）によつて伝統も浅い外来思想に基づく価値観）の一方的押しつけに終始することが多いのでしょうか。たしかに、情報通信技術の発達で家に居ながらも地球の裏側や宇宙空間へ一瞬で音声や映像を伝達できる時代に生きる私達に、墨を磨らないと手紙も書けなかつた時代の生活感覚や物事の考え方を理解することは難しいです。しかし、私達の父祖である歴史の当事者達がどのように状況や形勢を理解、判断し行動したのか、これらを「当事者の立場」になつて

考えてみないことには、歴史的事実（もちろん伝聞や風説によらないもの）が過去から現在へと私達に訴えかけて来る意味を感じとる事ができないように思います。姫路藩勤王志士の思想的源流は、逼迫する姫路藩の財政を立て直したことで有名な家老 河合寸翁が水戸藩主徳川斉昭と親交があつたこと、姫路藩の秀才が昌平坂学問所で水戸藩士と交流した結果、幕末尊皇攘夷の礎となつた水戸学を姫路藩に持ち帰つてきていたこと、町人にも広まつていた国学を姫路藩で教授した秋元安民の存在などが挙げられます。実際に河合寸翁は楠正成公の真筆を所持していました。これは湊川神社宝物殿で今も見ることができまふ。

たちが、なぜ激しい勤王の志に突き動かされたのでしょうか。戦後の歴史学者が言うように、復古神道の影響から一時的に盛り上がった単なる「流行」に過ぎなかつたのでしょうか。二六〇〇年を越える私達の国、日本の歴史は単なる「流行」の連続だったのでしょうか。私には、地下水脈から水が湧き出るように日本国の歴史に通底する大きな「うねり」のようなものが感じられてなりません。姫路勤王志士の終焉に際し、今に伝わる彼らの最期から特に印象に残る記述を挙げます。

## 河合伝十郎 享年二十四才

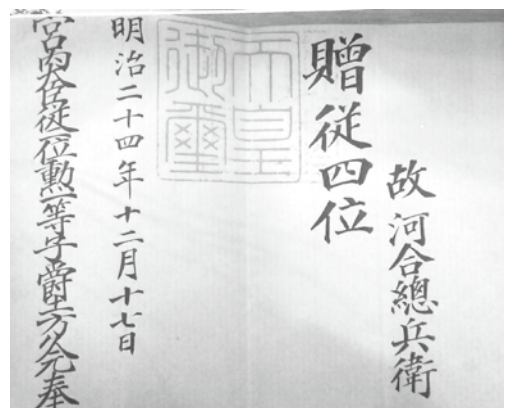
河合惣兵衛の養嗣子。囚われて拷問を受け、骨肉破れ絶息数回に及ぶも脱藩中のことは一言も供述せず、ただ文天祥「正気の歌」を朗々と吟じた。

## 萩原虎六 享年二十二才

勤皇志士中最年少。河合惣兵衛指揮下にあつて華々しい活動をした。伊勢神宮と御所を遙拝し自刃。

## 河合惣兵衛 享年四十九才

姫路藩勤王志士の指導者。死に際し、準備された刀が自分の愛刀ではなかつたため、これを取り替えるように要求し、茶を一服したのち辞世を認め、到着した愛刀で泰然自若として自らの首を切つて絶命。



これらの事実を「時代遅れ」、「野蛮だ」と遠ざけることは簡単ですが、それでは過去の歴史が私達に示している意味を理解することは困難です。幕末の姫路藩で湧き出た尊皇攘夷の歴史的意義をわずかでも汲み取り、彼らの心情を少しでもふるさと郷土に伝えられるように微力を尽くしたいと思ひます。

姫路藩勤王志士のご子孫と語つた時に私が詠んだ歌を挙げてこの拙文を終えます。

ふるさとに勤王党のありしころ  
姫路城下のさまは如何にぞ

いまだ見ぬ姿は如何にと昼下がりに  
御身の末としばし語らふ

(日本会議兵庫中・西播磨支部事務局長)

## 終戦記念日を前にして想う

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 三木 英一

今年も八月がやってくる。私は毎年七月になると、昭和二十年七月三日夜から四日にかけての姫路大空襲の中、燃え盛る田圃道を母と二人の幼い妹と共に逃げ惑い、西の山へと避難していった時の地獄絵図のような様子が想い出される。姫路の市街地は殆んど焼け野原になってしまった。あれからもう六十七年も経ったのである。大東亜戦争終戦の八月十五日は暑い日であった。

私が国民学校一年生の昭和十六年の夏に、出征していった父は南方の島で帰らぬ人となった。私は年に一度は靖國神社に参拝する。昇殿参拝を済ませた後、内庭の「母の像」の前に佇む。昭和四十九年の秋に、私達日本遺族会青年部が建立し、昭和五十二年二月九日に奉納した像である。母は赤ん坊を右手に抱き上げ、左手を男の子の肩に置き、男の子は右手で母の袂を持ち、女の子のお母さんのお腹と太腿に手をやっている姿である。私の家族と全く同じである。私が六歳、妹が四歳と一歳であった。母二十七歳の時である。

私は何時もお詣りすると、母の像の草履と両足、そして着物の裾と膝を撫でまわしながら、涙を流して合掌する。母は三人の幼な児を一生懸命に育て上げ、「母の像」が建立されたのを喜んでお参りした翌年、五十九歳でお浄土に遷った。母の像の台座の右側面には、「強ききびしく やさしかった母 おかげで私がある お母さんありがとう 私たちのかなしみが くりかえされることのないように」と刻まれている。本当にその通りである。私自身、父母の分まで年齢を貰って、このように現在、護國のお社への崇敬奉賛活動が出来る有難さに感謝している。

その「母の像」の右隣りに、日本無罪論を唱えたインド代表判事のラダ・ビノード・パール博士の胸像と「意見書の結語」の碑が建っている。

パール博士の言われているが如く、極東国際軍事裁判の裁きの秤のバランスが、もう変わってもよい頃であるのに、連合国が勝者の敗者への報復として日本を裁いたあの、いわゆる「東京裁判史観」から未だ脱けられない日本の

人の精神的状態が残念である。

G H Q の最高司令官として君臨した D・マッカーサー元帥は、朝鮮戦争に際して、トルーマン大統領の方針と対立し、昭和二十六年四月に解任された直後、五月三日の米国議会上院軍事外交合同委員会に召喚されて、その証言の最後で次のように言っているのである。

“The purpose, therefore, in going to war was largely dictated by security.”  
「したがって、彼ら（日本及び日本人）が戦争に突入した目的は、主として安全保障（自存自衛）のため余儀無くされたものである」と。

日本はポツダム宣言を受諾し、條件付きで降伏したが、昭和二十六年九月八日にサンフランシスコにおいて平和条約を締結し、そして、翌年の四月二十八日にその条約が発効し、日本は主権を回復して丁度、今年は六十年になる。そして又、今年是我が国最古の歴史書である

『古事記』が編纂されて丁度千三百年に当たる。日本民族の神話と歴史に学び、自分の国は自分で守るんだという誇りと気概を持って生きてゆきたいものである。この気持ちこそが、日本の国難に命を懸けて戦って散華された英霊に対する私達の道であると思う。

今年の終戦記念日には、パール博士の意見書の結語、マッカーサー元帥の証言、ポツダム宣言、サンフランシスコ平和条約、日本の神話と歴史について学ぶ日にしたいたいものである。

（意見書の結語）

時が熱狂と偏見とをやわらげた暁にはまた理性が虚偽からその仮面を剥ぎとつた暁にはその時こそ正義の女神はその秤を平衡に保ちながら過去の賞罰の多くにそのところを変えることを要求するであろう

ラダ・ビノード・パール



母の像

When Time shall have softened passion and prejudice,  
when Reason shall have stripped the mask from misrepresentation,  
then Justice, holding evenly her scales, will require  
much of past censure and praise to change places.

Radha binod Pal

コラム

# 命より大事なものはある

大手新聞社の若い記者が、元特攻隊員の方に取材した記事が載っていた。その記事は「亡くなった人にも生き残った人にも傷跡や不幸を与える。それが戦争の生む事実だ」と締めくくられていた。

現在の若者に戦争体験者の気持ち、なかなか理解できないことだと思ふ。ただ、戦争経験者から話を聞くのは良いことだ。偏った話をする人もいるが、もしかしたら話を聞いているうちに、何かを感じ取ることが出来るかもしれない。

現在の日本の教育では、「戦争＝悪」と教えられている。しかも、日本が悪かったと偏って教えられているので、そういう感覚を持って「特攻隊」のことを取材しても多分、理解出来ないだろう。さらに、国家と何かを教えてもらっていないし、自分が一番大事と思っている人なら、尚更理解できないことだと思ふ。

日本の教育や報道では、戦争の悲惨さばかりに焦点を当て、「民間人も巻き込まれ、罪のない人にまで犠牲が及ぶ」とこの部分だけが目立つ。確かに、戦争にはそういう一面もあるが、そればかりではない。

生きていけば、傷ついたり、不幸になったりすることは珍しくない、自然災害や、飛行機事故、強盗殺人も日常的に起こっている。東北の震災では約二十万人の人が亡くなった。それらと戦争で不幸になった人との大きな違いは、なんなのだろうか？

自然災害の時、命がけで助けられる自衛隊員や消防隊員、救助中へりが墜落して隊員が亡くなる事故もあつたけれど、彼らは人の命を助けるために自分の命を犠牲にしている。強盗殺人を追う警察や、立て籠もり犯人の所に突入する機動隊員。皆、自分の命を犠牲にしている。

どうしてか？一般の人達を守るためにそうしている。換言すると、自分の命より大事なものがあつたということだ。

それは「公」というもの、そしてその公とは「日本」ということなのである。そして、その日本（公）を守る究極が「特攻隊員」だったのである。特攻隊員だけではない、多くの散華された人達の主語は常に「日本」であつた。その中に、家族や恋人や故郷があつたのである。

現在の日本社会では、この公の精

神が希薄になりつつあり、この話は理解されにくいかもしれない。理解したいと思う人は、靖國神社や護國神社を訪れてほしい。また英霊の方々が残した「遺書」を読むこともお奨めする。八月十五日は当神社でも、「英霊感謝祭」の後、先人達がどんな気持ちで大東亜戦争を戦ったかを一緒に考える「英霊顕彰の集い」が開催されるので、ここにも是非ご参集してほしい。

では、最後に大東亜戦争の違つた一面を紹介しよう。

戦争終結後の一九五五年（昭和三十年）のインドネシアで開かれた国際会議（バンドン会議）で主催者のスカルノ大統領が日本の代表に言ったこと、「よく来てくれました。日本があれだけの犠牲を払って戦わなかったら、我々はいまもイギリスやフランス、オランダの植民地のままであつた。」つまり、「日本が戦つてくれたから、我々は独立することが出来た。」と言っている。

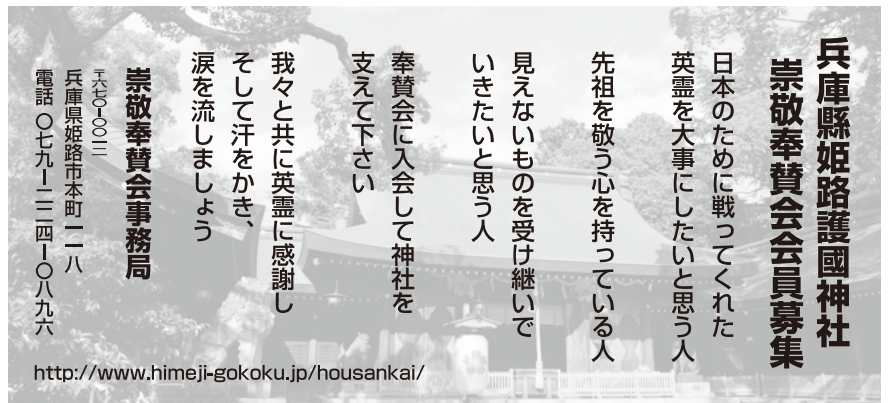
戦争の悲惨さばかりを教えるのではなく、こういうことも教えるなければならぬし、知らなくてはならない。

（編集委員 前川英昭）

## 訂正とお詫び

社報第5号の4ページで長船義生様のお名前を義夫様と、三段目十二行目の水師營を水教營と、四段目三十一行目の軍国主義を軍国詩主義と誤植しておりました。

長船様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。謹んでお詫び申し上げますとともに訂正いたします。



**兵庫縣姫路護國神社**  
**崇敬奉賛会会員募集**

日本のために戦つてくれた英霊を大事にしたいと思う人  
先祖を敬う心を持っている人  
見えないものを受け継いでいきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し  
そして汗をかき、  
涙を流しましょう

**崇敬奉賛会事務局**  
〒650-0033  
兵庫縣姫路市本町二一八  
電話 〇七九一三三四一〇八九六

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

# 日誌抄

二十四年四月  
二十四年七月

- 平成二十四年
- 四月 一日 姫路城外国語ガイドへ日本の文化研修の講師
- 四月 九日 フィリピン思い出の会正式参拝
- 四月 十八日 兵庫神道青年会四十五周年事業「バネラー」として出向(生田神社)
- 四月 十八日 調停協会総会に出向
- 四月 二十一日 日本再生の会正式参拝
- 四月 二十三日 姫路市遺族会総会に出席
- 四月 二十六日 崇敬奉賛会総会開催
- 四月 二十八日 日本会議講演会①
- 四月 二十九日 長田運輸産業へ講演出向(三木市)
- 五月 二日 春季大祭
- 五月 四日 湊神社国恩祭に参列
- 五月 六日 神戸護国神社春季大祭に参列
- 五月 十五日 打越大国玉神社へ出向
- 五月 十九日 姫路郷友会総会に出席、表彰を受ける
- 五月 二十二日 神河町慰霊祭
- 五月 二十三日 神社本庁評議員会へ出向(二十五日まで)
- 五月 二十六日 兵庫県神社庁揖龍支部神社総代会へ出向
- 六月 二日 日本会議講演会②
- 六月 五日 兵庫県神社庁初任神職講師に出向
- 六月 七日 関西電力エネルギー「懇話会(青森六ヶ所村へ出向八日まで)
- 六月 十六日 石井地区慰霊祭
- 六月 二十六日 佐用三日月分会慰霊祭
- 六月 三十日 大祓式・日本会議、霊友会五十名正式参拝清掃奉仕
- 七月 二日 崇敬奉賛会運営委員会
- 七月 五日 兵庫県神社庁合同総会に出向
- 七月 七日 日本会議講演会③
- 七月 八日 波賀町慰霊祭
- 七月 十六日 日本会議本部総会(明石市民会館)
- 七月 十九日 兵庫県神社庁協議員会
- 七月 二十一日 小野市粟生慰霊祭
- 七月 二十三日 近畿護国神社へ出向(彦根市)



Shirasaginomiya

## 美しい白鷺宮の 結婚式

一日一組限定

### 「和」の邸宅ウェディング

奉賛会会員様限定特典

1. 衣裳2点目 **20%OFF**  
たとえば10万円の衣裳が8万円! ワンランク上の衣裳に!!
2. モーニング、留袖レンタル **20%OFF**
3. ウェディング生ケーキプレゼント

TEL. 079-224-0559

受付時間 10:00 ~ 17:00 (火曜定休)

E-mail. info@shirasaginomiya.com

無料相談会開催中\*予約制

※詳しくは婚礼専用HPにて

<http://www.shirasaginomiya.com/>

婚礼受付相談室

主催 兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

八月十五日は兵庫縣姫路護國神社にご参集頂き、英靈に感謝の気持ちを捧げ、先人達の思いを共に感じましょう。

女声合唱団による「海ゆかば」など

英霊の言乃葉

電子紙芝居「お父さんへの千羽鶴」・

その他



やってくる

ジャーナリスト  
桜林美佐が

特別企画 午後2時~

講演 「国防の今を考える」

ひとり語り

「拉孟に散った花」

作・桜林美佐

・英霊感謝祭 十時(本殿)  
・英霊顕彰の集い 参集殿二階  
十時三十分~十六時三十分  
(入場無料・入退場自由)

### 英霊感謝祭と 英霊顕彰の集い

### 英霊感謝祭と

### 兵庫縣姫路護國神社

平成二十四年 八月十五日